県産業廃棄物協会講習会

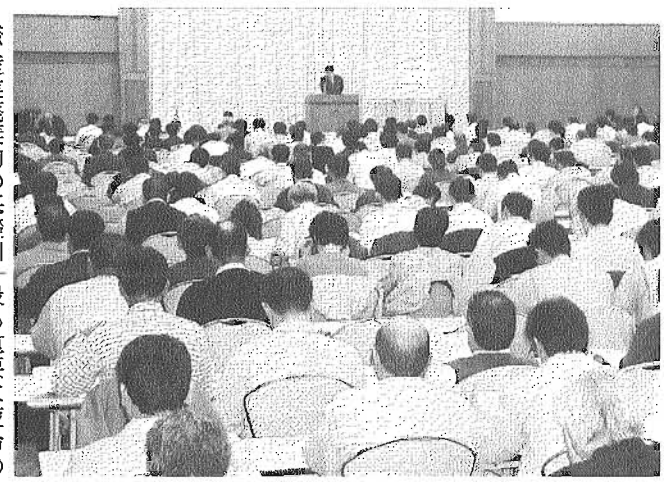
適正処理の意義等を学ぶ

県産業廃棄物協会（三谷純夫会長）は3日、鹿児島市のホテルウェルビューかごしまで14年度産業廃棄物適正処理講習会を実施し、行政や建設業、医療関係者など約500人が産業廃棄物の基礎知識や適正処理の意義などについて学んだ。

冒頭、佐野敏和専務理事が「産業廃棄物の不適正処理や不法投棄があとを断たず、一般市民の不信感を仰いでいる。適正処理は我々に課せられた最も重要な使命の一つ。この講習会を通じて適正処理に努めてほしい」と挨拶。

続いて、鹿児島市環境局環境総務課の濵田守泰主査、藤﨑圭規主事、奥田逸男主査、佐野専務理事を講師に講義に移り、不法投棄等不適正処理の状況及び取り締まりの現状や廃棄物・リサイクル関連法、産業廃棄物の責任処理、焼却の規制やダイオキシン対策など幅広い項目にわたって解説。参加者はテキストにアンダーラインを引いたり、メモを取るなど真剣に聴き入っていた。

同講習会は、県産業廃棄処理の適正化を一層推進させ、生活環境の保全と啓発を促すために10月4日から県内9会場で実施。今回の参加者を含めて約1600人以上もの人が講習を受けたことになる。



リサイクル関連法等を解説した＝鹿児島市のホテルウェルビューかごしまで

鹿児島砂防ボランティア協会 危険個所点検

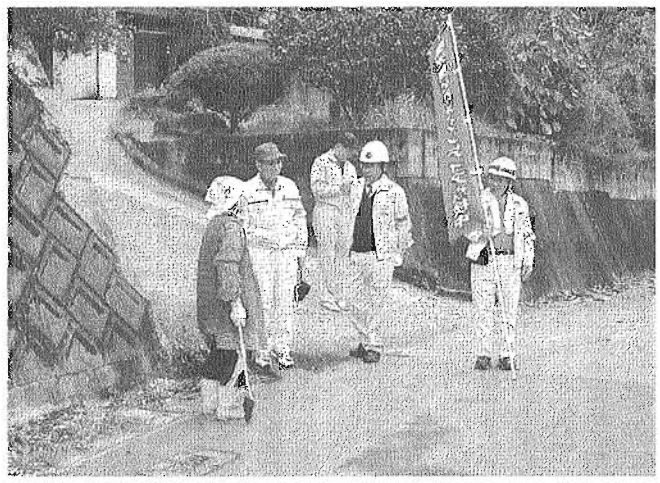
地域住民へ防災啓蒙も

鹿児島砂防ボランティア協会（稲田博会長）は3日、14年度第2回の急傾斜地崩壊危険個所の調査点検と付近住民への啓蒙活動を実施した。参加者は67人。鹿児島市の護国神社境内で出発式を行った後、現地に向かった。

参加者を前に、上拾石紀行副会長が「平成9年5月の発足以来、今回で10回目の活動になる。鹿児島市内の危険個所調査は前々回から続けており、本日で最終回になる。培った技術を生かしてけがのないようお願いしたい」と挨拶。

鹿児島市小野町の西ノ谷地区では、山や木の様子、住宅裏の崖の状況がどうなっているのかなどを入念にチェックした。また住民らから「危険を感じたことがありますか」「避難路を知っていますか」などについて聞き取り調査した。

現地で調査に当たった上拾石副会長は、同会の活動について「危険度調査ばかりでなく、住んでいる人たちの意識調査や防災知識の啓蒙も活動の大きな目的です」と話した。なお当日の調査点検と意識調査の結果は県砂防課に報告される。



住民から聞き取り調査する会員＝鹿児島市西ノ谷地区の現地で

県内建設業で働く若者からのメッセージ（中）

仕事を通じて人間性を磨く

山佐産業㈱　海江田　牧子さん

建設業に携わって早いもので7年が過ぎました。社会人になった時、22歳で学生気分が抜けず、先輩方に色々指導していただいた事がありました。朝は、お茶の準備をするため、お湯を沸かします。お茶の入れ方は一人ひとり均等になるよう、少しずつ入れていくという心配りが必要です。コーヒーを入れる時も、砂糖、ミルクの量を個人の好みを把握しておく事はもちろんですが、アイスにすると味が薄くなるので、砂糖を多めに入れるようにしています。同じお茶を飲むにしてもおいしいとうれしくなります。一日頑張ろうという気持ちになります。自分が、良い気持ちになる事は先ほどのお茶の話で言った事ですが、職場の方々の気持ちも良くなって全体の雰囲気も良い方向に向いていくと思います。仕事を行う事は、一人ひとり責任があり、大変苦労が絶えないものですが、心の中にうれしく思う事がひとつでもあれば、頑張っていけるものです。

私は、CADで住宅の図面を書いていますが、私が入社したころと比べて、家の事をお客様が勉強されていて、変更の数も10回以上行う事もあります。お客様は、一生に一度夢に描いていたマイホームに思い入れがあるのは当然です。展示場やショールームに行かれ、営業やプランナーの方にイメージを伝え、私達は図面に明確に表現していくという重要な役割です。お客様に納得していただく前に、自分が住むつもりで、これで住みやすい家になるのか、使い勝手がよいのかということを想像していく事が大切だと思います。例えば、シューズルームの寸法などでブーツや運動靴などが入るように壁の有効幅、長さを考えて設計する事など、細部に手の行き届く目をさらに養っていきたいです。自分が満足できる仕事は、お客様にもきっと心がつながり満足していただける事になると思います。

家は、心の安らぎや癒しの空間であると思います。

人間には感情があるように、家も住むうちに味がでてくるものだと思います。私は仕事から帰ってきて家に入ると気が抜けてしまいます。仕事で忙しく働いている分、家ではゆっくり家族と話をして落ち着きたいと思っています。本来自分にとって家に関わる仕事を選んだ事の意味は、家を設計するだけではなく、その家に住む人々の家族の絆をより一層深く、強くする人と人が分かり合えるように家も長く住んでみて、納戸をもう少し広くすればよかったとか、戸の有効幅を大きくとればよかったなどと見えてくる部分があると思います。実際、自分が設計した現場が、家の裏にあったので見に行きました。玄関のホールが広々としており、下に堀車庫があって、ダイニング、リビングが高い位置にある事から開放感がありました。2階は、主寝室と子供室からバルコニーに入る事ができ、夏は桜島を眺めながらバーベキューができるとプランナーの方が自信を持って提案していました。完成した家を見に行って、完成した家を見に行って、長い時間をかけて、完成した家を見に行って、長い時間をかけて、完成した家を見に行って、長い時間をかけて